

9月25日は「主婦休みの日」 夫の料理についてアンケート結果報告

意外と多い！？「料理をする夫」は46.9% 夫に作って欲しいのは「カレー」「お好み焼き」「鍋料理」

女性のための生活情報紙「リビング新聞」を発行する株式会社サンケイリビング新聞社（所在地：東京千代田区、代表取締役社長 内堀眞澄、以下弊社）は、読者の声から生まれた「主婦休みの日」の認知度アップに向けた取り組みを行なっています。2009年に日本記念日協会に申請、認定された「主婦休みの日」は日ごろ家族のために家事をがんばる主婦がリフレッシュしたり、家事の大切さを家族で分かち合う日。「主婦休みの日」を取るためには、夫の協力が不可欠ということで、今回は「夫と料理に関するアンケート」を実施しました。イマドキの夫の料理の頻度などを主婦の生の声とデータで紹介します。

※ アンケートは、リビング新聞公式ウェブサイト「えるこみ」で実施
(7月26日～30日実施、有効回答数476)

■ 料理をする夫は46.9% 「週に1～2回する」という人が34.3%

本アンケートによると現在、「夫が料理をする」人は46.9%。半数近くの夫が積極的に料理をすると回答。その頻度は「週に1～2回」が最も多く、中には毎日（9.0%）という人も！

夫が料理をする頻度(夫が料理をすると答えた人の回答)	
週に1～2回	34.3%
月に1～2回	22.7%
年に2～3回	16.7%
毎日	9.0%
週に3～4回	6.4%

■ 料理をして欲しいのは「体調が悪いとき」

やはり一番多かったのは「体調が悪いとき」。逆に、「作って欲しいと思わない」という人も10.9%いました。料理をお願いしたものの「時間はかかるし、キッチンがぐちゃぐちゃにするし。具合悪いのに結局片づけをしなければならなくなった。結局主人の分の食事は私が作った」という声もあるように、「手間が増えるだけ」ということも原因の一つかもしれません。

夫に料理をお願いしたいと思うとき※上位5つ(複数回答)	
自分(妻)の体調が悪いとき	51.1%
自分(妻)が忙しいとき	20.4%
夫に料理を作って欲しいとは思わない	10.9%
毎日作ってほしい	5.5%
リクエストしたとき	4.8%



■ 夫に作ってもらとうれしい料理は「カレー」

凝った料理というよりも、家族みんなが好きで楽しめる料理が人気です。またベスト5の料理については、「夫の得意料理」としても多く名前が挙がってきました。

夫に作ってもらとうれしい料理 ベスト5	
カレー	16.0%
お好み焼き	8.0%
鍋料理	7.8%
パスタ	6.7%
チャーハン、焼きそば・焼きうどん	5.9%

■ 夫の料理について、主婦のホンネは？

<料理をしてもらってうれしい！>

- ▶ 結婚記念日は私は忘れていたのに、夫がちゃんと覚えていて、レストランのコース料理のようなディナーを作ってくれた（43歳）
- ▶ 年末に風邪をひいて寝込んでいるときに嫌な顔をせず、子供たちにちゃんとご飯を準備してくれて私のも作ってくれた（49歳）
- ▶ 昔はつくらなかった主人が会社を定年になったあと焼き飯をつくってくれた時はうれしかった（51歳）
- ▶ 焼き物が苦手です。夫が作ると焼き加減が絶妙でおいしい。いつも焼き物は夫が担当するので毎回うれしく思っています（32歳）
- ▶ 嬉しくはないけど、子ども達が私のよりお父さんのハンバーグが美味しいといっています（44歳）

<「失敗した！」「二度と作ってもらわない！」>

- ▶ 夕飯を手伝ってもらおうとすると、次を考えないで作りだすので、皿や調味料を私があわてて準備する事に。洗い物も流しにたまるので、結局自分がやった方がましとってしまいます（46歳）
- ▶ 煮物を作ってくれた時に、塩と砂糖を入れ違ってしまった（49歳）
- ▶ 2人分の量がわからず、すごい量を作られてしまいました（34歳）
- ▶ 体調が悪い時に「俺が作る！」と言ったものの、「あれはどこだ」「どうすればいい」だの… 結局自分が動いた方がいいとあきらめました（36歳）
- ▶ 材料ばかり凝って、使いまわしのあまりきかない材料を買ってきます。フルタイムで1週間の仕事をしていた時は、1週間分の料理を考えて買い物も日曜のみで済ませてしまうため、使いまわし&保存のしにくい材料を買われると処分するのももったいないので使い方に困りました（34歳）

弊社ホームページ「リビングWEB」でも主婦休みに関する特集ページを展開しています。

<http://mrs.living.jp/shufuyasumi/>

「主婦休みの日」とは…

1月25日、5月25日、9月25日を「主婦休みの日」として2009年4月に日本記念日協会に申請し、認定されました。家事を主に担当する「主婦」が、気兼ねなく家事を休む日。年末年始・ゴールデンウィーク・夏休みの直後の給料日に！という主婦の声で決まりました。

<本件に関するお問い合わせ先>

サンケイリビング新聞社 リビング編集部：滑川まで

E-mail : cc@sankeiliving.co.jp

twitter@Living_henshubu

〒102-8515 東京都千代田区紀尾井町3-23 TEL : 03-5216-9161 FAX : 03-5216-9260